



安全・安心への取り組み

校長 田中 秋人

早いもので、今年のカレンダーも残り一枚になりました。11月上旬は、いつになったら秋になるのかと思うほどの暑さを感じる日があった一方、中旬ごろからは秋を飛び越え冬になったような気温の日が続きました。それに伴い、日が暮れるのが早くなってきました。夏であれば、まだ燦々と太陽が輝いている午後4時頃なのに、今は暮れかけています。12月は一年のうちで最も日が短くなり日暮れが早くなります。暗くなることで、何かと気ぜわしく感じてしまいます。

さて、11月中旬から校庭の遊具の工事が始まりました。この工事は、危険を伴った緊急の改修ではなく、より安全に使うための更新工事です。工事が始まった遊具ですが、休み時間の子もたちにとっての楽しい遊び場の一つでもあります。ある子どもから、「校長先生、いつから使えるようになるの?」と質問を受けました。私は「1月ごろから使えるよ。安全に使うための工事だから待っていてね。」と答えました。すると、「しょうがないから我慢する。」と答えてくれました。遊具で遊ぶことができないことは残念だけど、安全のために仕方ないと感じてく



れたようです。学校では日頃より様々な安全への取り組みを行っています。毎月行っている避難訓練では、安全に避難するための約束を確認しています。先日は、避難訓練を予告せずに行いましたが約束をしっかりと守り避難することができました。また別の日には、消防署の方にご協力いただき、安全な煙を使用して、煙で充満した部屋からの避難方法を学びました。実は学校だけでなく、地域の方も安全への取り組みを行っています。それは、5日に行われた地域防災訓練です。防災備蓄庫の防災用品を確認したり、緊急用のトイレを設置したりしました。これらの活動のように実際に行ってみる、同じようなことでも繰り返し行う、ということがいざ何か起きたときには役立つということを再認識させられました。これからも学校として安全に学習できる環境を整えていきます。

豊かな学校生活を過ごすためには、安全ともう一つ必要なものがあります。それは子ども一人ひとりの安心です。12月の人権週間にあわせて、子どもが安心して学校生活を過ごせるようにいじめについてのアンケートを毎年実施しています。今年度も12月上旬に実施をします。学校で子どもが安心して勉強をしたり、遊んだりすることは、当事者の子どもだけでなく教職員はもちろん、保護者・地域の方々の願いでもあります。このアンケートをもとに、より子どもたちの気持ちに寄り添い、声に耳を傾け、子どもとともに様々な課題を解決できるようにしていきます。

いよいよ12月。寒い日が続きますが、安全・安心の二つが欠けることなく、一人ひとりに寄り添った教育活動を展開していきます。冬至に向かって日が暮れるのがますます早くなってきます。子どもたちが遊びや習い事から帰る頃には、夕闇に包まれていることでしょう。家に安全に安心して帰れるように、学校でも日々の生活の中で子どもたちに声をかけていきます。保護者や地域の方にも子どもの様子を温かく見守っていただければ幸いです。今後も変わらぬご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。